

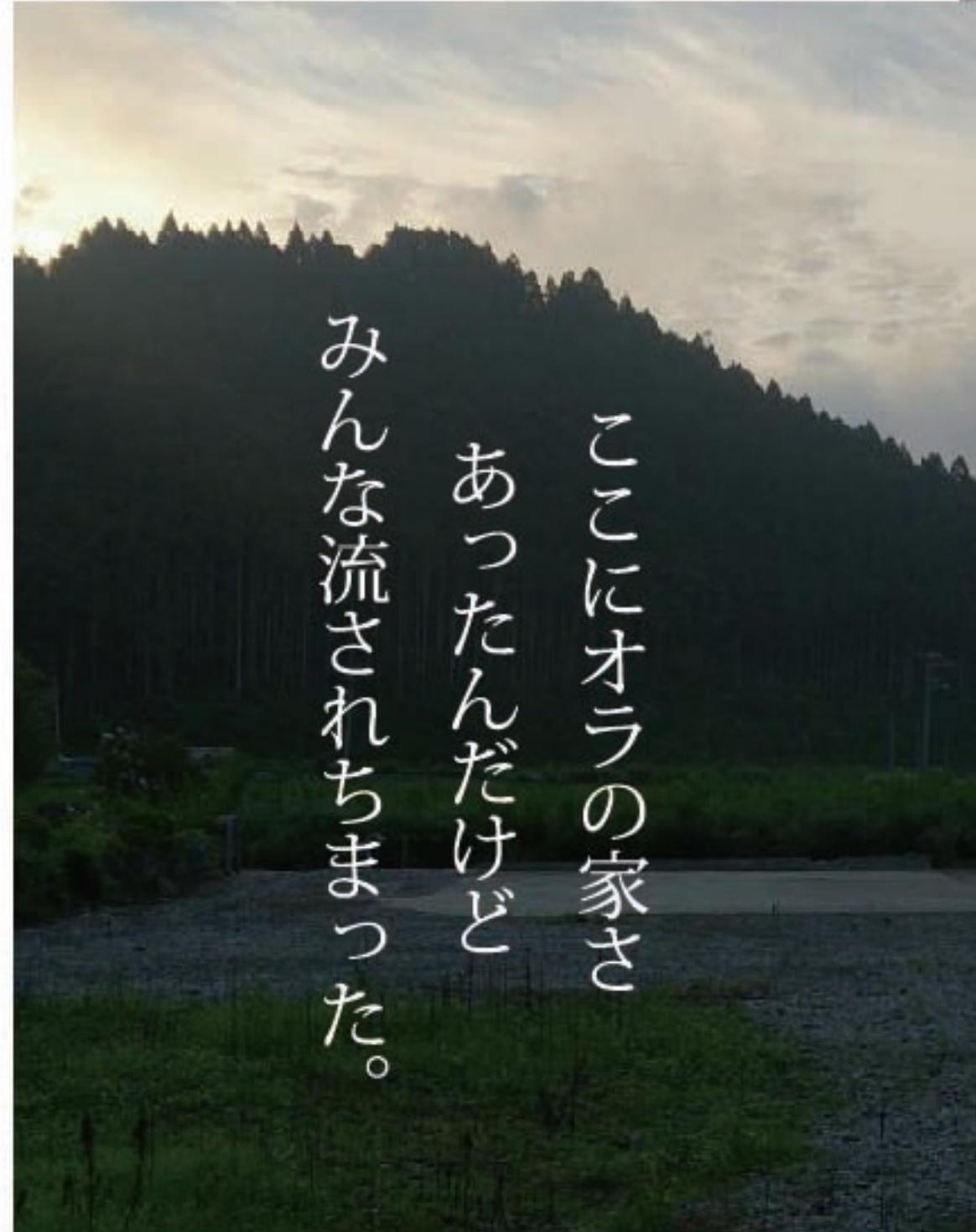
相川・小指地区

宮城県石巻市

関東と東北をつなぐ
フリーぺーぱー

結
心

つなげよう
つながろう



結心 石巻号
発行日: 2014年10月30日
発行元: 東海大学チャレンジセンター 3.11生活復興支援プロジェクト

3.11 Life Care Project
生活復興支援

結心

ゆいっこ

このフリーぺーパーには、被災地と関東

の人々の心を結ぶことで助け合いの絆を深められるようについて想いを込めています。

タイトルは助け合いや協力と言った意味を持つ「ゆい」という言葉に、東北の方言である接尾語「っこ」を合わせたもので、これに「結心」と漢字を当てた造語です。

今回の紹介地は、宮城県石巻市北上町十三浜相川地区・小指地区です。



目次

復興の足跡

interview
キーパーソンに聞いてみた
ついつい使っちゃうから考えてみた
「神」って當時どういうもの？

現状紹介
4年目の石巻復興
一歩未と現在から見つめて～

あげるひと、もらうひと
特定非営利団体バルシック

フリップアンケート
「みんなでもう一度やってみたい事は何ですか？」

どんぐりハウス周辺マップ

編集後記

復興の足跡



泊区公民館竣工式



2014年現在の泊区港の様子

【プロジェクトリーダーとして】
三年前、自分は高校生であり福島県の母校で授業を受けていました。最初はただの地元だと思っていた先生や友達も気にすることなく授業を続けていました。しかし、次第に大きな被災となり、校庭に避難しました。あの時の記憶は鮮明に覚えています。被災地に比べると小さな被災でしたが、自分にとってはとても恐ろしく感じました。一週間ほど母校の授業や部活動は再開しましたが、自分が所属していた野球部は東北の学級との練習試合がすべてキャンセルとなり、東北と福島県での被災状況の違いを思い知りました。

その後、ニュースなどのメディアで自分の経験したものよりもはるかに大きな被害を受けていることを知り、自分も何か出来ることがあるのではないかと考えていましたが行動に移すことは出来ませんでした。それから東海大学に入学し、高校時代に出来なかったことを成し遂げるために3・11生活復興支援プロジェクトに入りました。それから一年間活動し2014年度プロジェクトメンバーにおいて今まで以上に交流の場が増え、自分たちの活動にも幅が広がるのだと思います。三年前ではどんぐりハウス建設など目に見える活動を多く行つてきました。現在

が起きました。震災の規模は大きく、東北地方をはじめ日本全国に壊滅的な被害を与えるままで、東海大学湘南キャンパスでも少しではあります。が震災の影響を受けました。そこで、建築学科杉本洋文教授を車両に初代プロジェクトリーダーである下田奈祐を中心とした初期メンバーで岩手県大船渡市と宮城県石巻市に仮設公民館「どんぐりハウス」を建設しました。これが3・11生活復興支援プロジェクトの最初の活動であり、発足のきっかけとなつたのです。その後、被災地だけでなく関東でも多くのイベントや企画を行い活動してきました。

これまでの活動と今後の方針

2014年度最初の活動は、初年度に建設した「どんぐりハウス」移設に向けた「どんぐりハウス」解体作業です。2011年の完成から多くの地域住民やプロジェクトメンバーがこの「どんぐりハウス」を活用してきました。また、2014年7月には新たに「泊区公民館」が完成しました。これは仮設公民館ではなく常設の公民館であり、泊地区的住民や自分たちプロジェクトメンバーにおいて今まで以上に交流の場が増え、自分たちの活動にも幅が広がるのだと思います。三年前ではどんぐりハウス建設など目に見える活動を多く行つてきました。現在

では目に見える活動ではなく、住民の心の問題や関東の人々に被災地の状況を伝え実際に現地に行つてもうきつかけを創る活動を中心に行っています。これは活動の成果をはかることが難しく、直接復興活動に携わっていないのでないかと懸念に思う活動もあります。しかし、今の被災地にはこのような活動が必要不可欠だと自分は考えています。自分をはじめメンバーが現地に行くと、住民の方々は快く自分たちを迎えてくれますが、地域全体での活気のようなものがどこか足りないと感じます。

また、自分たちの企画やイベントに参加してくれる住民の方々も固定化している傾向があります。いくら土地が豊かで道路や瓦礫の整備が進んで、その場所にいる人々がこのような状況では意味がありません。この問題を解決するためにも先ほどの心の問題を解決する必要があるのだと感じます。土地とそこに住む人、この二つが揃つてこそ本当の復興であり、目標すべき場所なのだと自分は考えています。そのため、ほんの些細な事かもしませんが、学生である自分たちが出来る事を精一杯考え方、少しでも復興の礎を築くことが出来るよう日々精進し活動していきます。

し合い協力し活動することが自分の考える理想のプロジェクトの姿です。正直なところ、自分はサブリーダーを中心に幹部メンバーに助けてもらつてばかりで、一人だけではここまで上手くプロジェクトをまとめられませんでした。活動するたびに自分は周りのメンバーに頼まれているのだと感じます。このメンバーと共にリーダーとしてプロジェクトのため、被災地のため全力で頑張っていきます。

最後に、自分は復興支援の終わりはまだまだ先だと思っています。ニュースなどのメディアでも最近は毎年の3月11日しか取り上げられないことがほとんどです。この問題がいつ解決するのかは誰にもわかりません。その中で自分たちは今出来るこことを精一杯を行い、後輩達に引き継ぎながら活動していきます。

【プロジェクトリーダーとなりました】
三年前、自分は高校生であり福島県の母校で授業を受けていました。特に「現地では何が求められているのか、何をするべきなのか」を考え結論を出しますが、果たしてその結論が正しいのか間違っているのか、いまだに疑問を感じます。また、プロジェクト全体をどのようにまとめたかなど多くのことに不安を感じ2014年度スタートとなりました。昨年、自分がプロジェクトに入りたての時は先輩方の指示に従い活動するだけの存在でした。しかし、プロジェクト全体をまとめる役職に就き、プロジェクト活動の本当の意味を理解することになりました。ただ言わされたことをこなす事は正直誰にでも出来ます。そうではなく、自分で考えて行動に移すことが最も重要な事であり、必要な事であると感じます。そして、リーダーや幹部だけが活動の主軸を決めるのではなく、全メンバーが意見を出

石巻市どんぐりハウス

文：花塚優人

キーパーソンに聞いてみた
ついつい使っちゃうから、考えてみた。

「糸」って結局どういうもの？



今や、巷で汎用される「糸」とかと一縷だと思って、この地域は昔からその「糸」が強い地域だったの？すうと例えは今日は火力がたくさん取れたという時には、みんなで協力して、ただ、昔の街の流されたところに住んでいた人々は、こっちに行ったり、あっちに行ったりとバラバラになってしまっている。仕事上あっちのほうが便利とか、昔は、みんな近くにいたけれども、いまは地域の中のコミュニケーションがバラバラになりつつあるの。

鈴木さん 今進行の「糸」とかと一緒にだと思って、この地域は昔からその「糸」が強い地域だったの？すうと例えは今日は火力がたくさん取れたという時には、みんなで協力して、ただ、昔の街の流されたところに住んでいた人々は、こっちに行ったり、あっちに行ったりとバラバラになってしまっている。仕事上あっちのほうが便利とか、昔は、みんな近くにいたけれども、いまは地域の中のコミュニケーションがバラバラになりつつあるの。

中村 ここは集落はそのままバラバラになつた内の一つなですか？

鈴木さん この集落も、前はバラバラではなかつたけれども、結果的には集団移転地が分かれてしまつたり、それによつてグループ化されてしまつて、震災当時はみんなで、一か所に移転しまつたという話だつたわけ。ただしこうして、高台移転が長引くほどモノの考え方が違つてきて…。

中村 それで食い違いが起きてしまつて、バラバラになつてしまつたと。

いう複合的なものを要望しているの。学者塾だつてそう。

中村 確かにありますね、学習塾は。

鈴木さん でも相川小学校区でも人が減つてきてしまつて、最初およそ200軒あったのが震災の後あたりで、50軒くらい減つてしまつた。子育てるところがなければ誰も娘さんなんて来ないよ、苦労するだけだよ。

中村 ピカピカしてもネガティブな側面ばかりイメージしてしまつんですね。

安久 ジヤあ皆さんあまりプラス思考では考えられないのでしょうか？例えば小学校を作るとか、スクールの施設を作るとか。

鈴木さん そういう意味はみんなあつた。今もいろいろ交渉して、いるけれども、話し合いをして、折衝して、要望書を出して、それはみんな共有しているところなんだけれども、要するにそういう複合施設、図書館や子供たちの学習保育、遊び場などを入れられるようにして、週刊回か

中村 とにかく集まれるような、みんなが何かをするような場所ですね。

鈴木さん その考え方には賛同しているの、みんなのことぶ議で、まとまるかも知れないしさ…現實はそうだが、昔の雰囲がなくなつたとして、折衝して、要望書を出して、それはみんな共有しているところなんだけれども、要するにそこ

中村 今回の「糸」というテーマが強くなるけれども、この地域は昔からその「糸」が強い「結束」ということなのですけれども…。

鈴木さん 何について話すの？

中村 今回の「糸」というテーマが強くなるけれども、この地域は昔からその「糸」が強い「結束」ということなのですけれども…。

バラバラになったコミュニティ

「糸」とは何ぞや？

鈴木さん だからそう、今は「糸」とかが薄れてしまつたのが今の地方の問題なのさあとじで、ここだけじゃなくて、全体的な話などといふ。

鈴木さん 市にお金が入つたら、まずは人口の多いところから順にお金がはいつて、人の少ないところはあんまり恩恵を受けられない。同じ所を作りたいといった時に、10軒しかないとこに、大きいのは必要ないでしょう？それが30軒あれば、施設が立派になる。だからなるべく寄せて、大きいものつくりで、そこでスポーツできるような施設が欲しいな、と思って、前は小学校の体育館とかを利用して、バレー、卓球したり、卓球したりしていたの。

中村 その小学校がなくなるとなると…。

鈴木さん そう、場所がなくなったわけですが、昔は若い人たちがそこでバレー、ボランティアで作つて練習したりして、それが出来なくなつたわけ。それをなんとかしてくれつていらう意識は出してるんだけど。

中村 なかなかいかないのが実情ですね。

鈴木さん 節も最初は、「糸」ってなんだろ？と思つた。もともと「糸」ってひつても、元々あるもとに思つてたから。

中村 意識しなくてむづかつたといふことないんですけど、

鈴木さん そう、だから何で「糸」なの？ といふ印象。逆にそう思つたよ。元々そのやつで自分たちは生きてきたから、当然のものと思つてゐるわけだね。田舎の人たちは、都會にはないかもしないよ。隣は何をする人？だからせよ。そういうところでは「糸」って大事だと思つたけど。

中村 私たちみたいに若い年代とかは何があるとすぐに「糸が大事だよ」というようにとても感じ覚覚を持つて使つてじます。

鈴木さん 今彼らは「糸」つていうよりも「結つこ」と言つたほうがしっくりくる。そういうスタイルをずっとやつてきたから、田舎とか、一人じや大変だから、みんなで手伝うのさ。ナラリーマンの仕事に、そういう「糸」は必要とされないし、逆に都會ではもとよりそういうのがなかつたが、少しでも結びつけば「糸」だな。

中村 先程から「糸」は大事だよ、といつておられたが、この三年間、余りにも繰り返してやさしだが、この三年間、余りにもマスメディアにおいてそれが使われすぎている

中村 こっちから意図的に作るものではなく、もとより存在する。

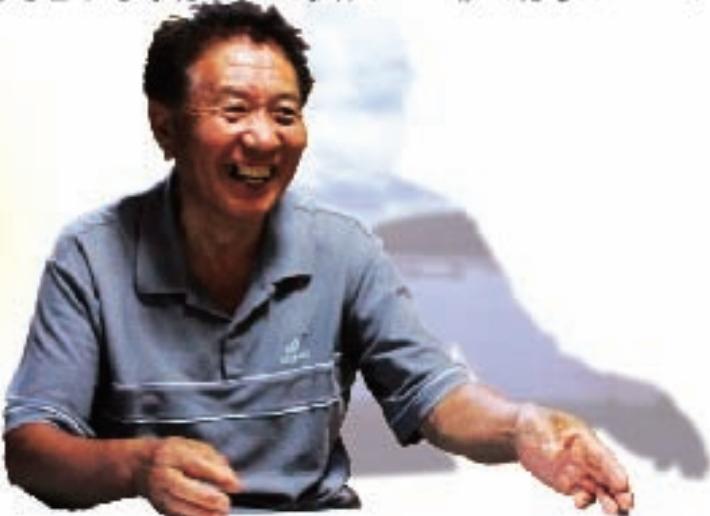
鈴木さん みんな「糸」が原爆しているって思っているかもしないよ。でも、出会った人たちがまた帰って来たいと言えるような街にしたいわけだ。それが残った人たちの願いだから、せめてハードの面だけでも、ちゃんとしたのが欲しいなあと思つてゐるわけ。

中村 あくまで「糸」が原爆で「糸」と言ひてきた、意識するまでもないたとのこと。それが力を持つているとがそりらうことは考えなかつたですか?

鈴木さん 文字は必ず入つてゐる。あれは新聞だのテレビだのが作ったもの。下から上がつてきただの言葉でなくて、逆に「糸」っていう「糸」の字すよと並んでいたの。まあ、この震災で、「糸」にもいろいろあるんだけれども、ボランティアとかの「糸」は確かに出てきたよ。初対面の人でも握手して一生懸命がれきとか片付ける、それも「糸」の一つだから。地域の「糸」ではなくて、ボランティアとか、遠方からやつてきて、そういうのに対して「糸」って扱えられるんじゃないかな。

安久 関東圏で被災された方々では、解釈が違うかもしれませんけれど、関東では、囲つてるとこを助けるということを指してると思うんですね。

鈴木さん テレビとか新聞とか言つてるのは、



鈴木学
石巻市北上町十三浜相川地区の元自治会長。震災発生時にはその様で相川子育て支援センターに開かれた避難所で所長を務めた。現在は同地区の自治副会長を務める(2014年8月現在)。

まだあのショックから立ち直り切れていないこと。「糸」という言葉だけでも、関東と被災地「石巻」では捉え方が違うということ。そして少なからず「糸」が力を持ち、そこにいる人たちの支えとなつてもらいたい。

この地域の本当の復活は見えてきませんが、葛藤がありながら、動きつづける人がいます。それでも、時間は限られます。その言葉は、より大きな力が必要だという訴えにも聞こえました。東北の復活なくして日本の復活なし、必要とされる最後のピースは私たち自身のかもしません。

(原稿 中村浩貴／撮影・補佐 安久拓也)

4年目の石巻復興

「過去と現在から見つめても



石巻市北上町の状況

東日本大震災から四年目を迎える今日であるが、復興が大きく進んでいるとは言えない状況である。しかし、当時はメディアは震災についてとりあげていない。仮設住宅には500人を超える人が生活をしているものの、あと二年で解体しなければならない。この状況であなたなりうするだらうか。現地だけではどうにもできないのが現状だ。

吉浜小学校、相川小学校が津波の被害を受けた。唯一残った橋浦小学校と統合し、北上小学校として開校。現在両校の小学生の子どもたちも通っている。また、更地となつた吉浜小学校の校舎と体育馆の間に国道398号線が通つている。この道路は現在も周辺で道路整備を行つていて、相川運動公園団地とっこりサンパークの仮設住宅からの高台移転先は決まって宅を出て行き、家族で一つ屋根の下で暮らせないのも悩みの種だ。

ではないかと考えさせられてしまった。他にも小・中・高等学校が遠いため子どもたちだけが仮設住宅から高台移転先は決まって



ここでの復興をしよう

課題の多い現状ではあるが、私たち一人ひとりに出来ることはないのだろうか。足を運べるのなら行って見るのも良いだろう。東北の物品に触れてみるのも良いだろ



いるが、手付かずの状態である。その影響で仮設住宅に留まる期間は延長されてしまつていて、計画だけではなく、実行しないと復興が進まないのは当然のことだ。これらは今後の生活をしていく上で必要なことであるが、現地の方々の生活ももうと目を向けることが重要であると感じられる。

絆は昔からここにある
2014年8月、夏らしい流し素麺のイベントを行い、相川・小



今だからこそある想い

震災とその後を振り返つて改めて思うことは、被災が大きかつたということだ。震災が進んでいないと考える人は多く、震災にて受けた心の傷には深いものがある。子どもたちのショックも大きかった。ようやく落ち着いてきたが、これからも心のケアが必要だ。しかし、悪い事ばかりでなく、新しい繋がりや絆がここに生まれた。

指地区の仮設住民に住む方々

流し素麺のイベントには子ども

と交流を深めた。ここでは生まれ育ちもと義で、もう70年以上この地にいる人や震災直前に来られた人々などさまざまな方が生活をして

から大人まで夢中になつていた。

自古山会の鈴木さんは、「このよだれを生きしていくことを決めていた」と語られていてが多く、石巻の魅力を感じているという思いを知ることができた。その中でも話題に上がつたのはやはり絆。石巻の方々は昔からこの地には絆があると言つた。だからこそ助け合うことができ、これからもそのつも

りだそうだ。「一方、震災後に新しい形が生まれたという声も聞かれた。それは私たちのように外から来る者との絆だ。この新しい形の絆を長い方向にもつていれば復興はより良くなるのではないか」と語る。震災から子どもは大きな声を出することはできなかつた。家の壁がだらりと倒れ、小さな喧嘩もろくにできなかつた。しかし、ここでの繋がりを明日への希望としていこうとする前向きな思いここにはあった。

仮設住宅街の田たた

明るく前向きな志向を見せてくれる住民の方々。しかし、「仮設住宅から出たい」という声を聞き流すことはできなかつた。家の壁がだらりと倒れ、小さな喧嘩もろくにできなかつた。しかし、ここでの繋がりを明日への希望から大人まで夢中になつていた。自古山会の鈴木さんは、「このよだれを生きしていくことを決めていた」と語られていて多くの人や震災直前に来られた人々などさまざまな方が生活をして

う。震災とは、建物だけでなく人のが建て直されて初めて活きていく。それは人と人の小さな繋がりから誰かのいいものなのかもしれない。

前向きな絆の日々

取材・記事担当

鶴谷・金子・須藤



あげるひと・もつひとつ

特定非営利活動法人バルシック

——活動していく嬉しかったことは？

日方さん 「NPOはタダでなんでもしてくれる」っていうのが住民さんたちに出来てしまっていました。

2011年3月頃から「私は向かう電車に乗っている」と西村さん、ジャガイモある「カレーを作りたいんだけど...」なんて電話がかかつてきましたとともにまた、「っこりサンパークの仮設住宅災直後、東京で物資の調整などを担当していたんですけど、その当時つて誰もが何がどうだったと思うんでうモヤモヤがあった、裁判をして無理やり東北に来ました。

——支援活動に参加することになったのですか？

日方さん もともとバルシック東京事務所に勤務していました。震災直後、東京で物資の調整などを担当していたんですけど、その当時つて誰もが何がどうだったと思うんでうモヤモヤがあった、裁判をして無理やり東北に来ました。

——震災後初めて石巻を訪れたとき、どう思いましたか？

西村さん 2012年2月にこっちになりました。その時はまだ、所どころ道路は舗装されていない堤防あたりのガードレールも無かったころで怖かったです。車は見ただけでは分かりませんが振り返すといろんなものが出てきました。総合支所や吉浜小学校は無い状態のままでした。小学校の裏山の木には洋服などが引かれていて、そういうものを見ると胸を締め付けられました。こういうものも全部、元々ここに住んでいた人たちの財産だつたんだなと思うと起きた事を改めて感動させられました。

——辛かつたこと、大変だったことは？

西村さん 住民さんに誤解されただけで、仕事したり人との付き合いでいたら当然発生するものなので、それを苦痛に感じたことはないです。むしろ大変なことはあるから支度が必要で、困難もないような場所なら支度なんかなくて、最初からつまづいているはずです。うまくいかないからこそ、誰かが行く意味があるんです。

——バルシックとしての最終的な目標はなんですか？

日方さん 今はなんとなく落ちているようになりますが住民さんたちが仮設を出ていくとき、必ず最後まで残つてしまふ人たちがいます。そういう人たちを最後の一人まで見守ることです。

——だからこそ、支援団体に求め



っこり農園の様子

バルシックは震災直後から被災地で焼き出しや物資支援などを行ってきました団体だ。三年経った現在でも様々な活動で宮城県石巻市北上地区を支援している。今回は2011年2月から北上支援実現地勤務スタッフとして活動されている西村陽子さんと震災直後からバルシック被災者支援現地スタッフとして活動している日方里砂さんにお話を伺つた。

——なぜ、支援活動に参加することになったのですか？

日方さん もともとバルシック東京事務所に勤務していました。震災直後、東京で物資の調整などを担当していたんですけど、その当時つて誰もが何がどうだったと思うんでうモヤモヤがあった、裁判をして無理やり東北に来ました。

——活動していく嬉しかったこと受け入れてくれるんです。

西村さん 住民さんが声をかけてくれること。私が仕事を東京で向かう電車に乗っていると西村さん、ジャガイモある「カレーを作りたいんだけど...」なんて電話がかかつてきましたとともにまた、「っこりサンパークの仮設住宅災直後、東京で物資の調整などを担当していたんですけど、その当時つて誰もが何がどうだったと思うんでうモヤモヤがあった、裁判をして無理やり東北に来ました。

——震災後初めて石巻を訪れたとき、どう思いましたか？

西村さん 2012年2月にこっちになりました。その時はまだ、所どころ道路は舗装されていない堤防あたりのガードレールも無かったころで怖かったです。車は見ただけでは分かりませんが振り返すといろんなものが出てきました。総合支所や吉浜小学校は無い状態のままでした。小学校の裏山の木には洋服などが引かれていて、そういうものを見ると胸を締め付けられました。こういうものも全部、元々ここに住んでいた人たちの財産だつたんだなと思うと起きた事を改めて感動させられました。

——辛かつたこと、大変だったことは？

西村さん 住民さんに誤解されただけで、仕事したり人との付き合いでいたら当然発生するものなので、それを苦痛に感じたことはないです。むしろ大変なことはあるから支度が必要で、困難もないような場所なら支度なんかなくて、最初からつまづいているはずです。うまくいかないからこそ、誰かが行く意味があるんです。

——バルシックとしての最終的な目標はなんですか？

日方さん 今はなんとなく落ちているようになりますが住民さんたちが仮設を出ていくとき、必ず最後まで残つてしまふ人たちがいます。そういう人たちを最後の一人まで見守ることです。

——だからこそ、支援団体に求め



新古里ーっこり



北上地区で採れたものをみんなに使った料理

——結んできた糸
そしてこれから

西村さんは取材をさせていただいている。日曜日の休日にもかかわらず、「こんにちは、あの、キューウリが欲しいんだけど...」と住民の方がっこり農園を訪ねてきた。西村さんや日方さんが北上地区の人々と築いてきた信頼関係を感じた瞬間だった。「ここで活動していると、与えるものだけじゃなく、くつでもうのものもたくさんあるんです」西村さんと日方さんはそう話していた。支援する人とされる人の間にあるのは上下関係ではなく、く对等な関係なのだ。

——こっこり農園は昨年まで、瓦礫や塙書で農作物が育つ状態ではなかつた。今でも土を掘り返すと小さな鉄の破片などが埋めているが、山の土を混ぜるなどしてだいぶ良くなつたそうだ。また、最近、農園でそれた野菜を利用してお弁当やお惣菜を作つて販売できるように農産物加工場も導入したそうだ。畑を購入学させてもらおと数十本のひまわりや元気で立派なキユウリがなつていた。「これからはもうとたくさんの人が農園を利用してもらえて、またいいなと思っています」と西村さんは話していた。



西村さん、やっぱり持続可能なつきまですね。今までやってきたものが苦しいのが面倒だが、看護人の後継者がないなどとの理由で焦くなつてしまつた。それは最初の段階で支援をつけていくにはお金がかかるままになればなりません。引き際を間違えてはだめですが、やっぱりこのままには頼みがあるので、それを見極めるのは難しいです。

西村さん、やっぱり持続可能につきまですね。今までやってきたものが苦しいのが面倒だが、看護人の後継者がないなどとの理由で焦くなつてしまつた。それは最初の段階で支援をつけていくにはお金がかかるままになればなりません。引き際を間違えてはだめですが、やっぱりこのままには頼みがあるので、それを見極めるのは難しいです。

西村さんは取材をさせていただいている。日曜日の休日にもかかわらず、「こんにちは、あの、キューウリが欲しいんだけど...」と住民の方がっこり農園を訪ねてきた。西村さんや日方さんが北上地区の人々と築いてきた信頼関係を感じた瞬間だった。「ここで活動していると、与えるものだけじゃなく、くつでもうのものもたくさんあるんです」西村さんと日方さんはそう話していた。支援する人とされる人の間にあるのは上下関係ではなく、く对等な関係なのだ。

NPO法人バルシックは東ティモール、スリランカ、マレーシアを中心とした国際活動支援や内戦で崩壊したコミュニティの復興事業を行つてゐる。特にフェアトレード(途上国)の製品や原料を適正な価格で統的に購入することで立場の弱い人たちの自立と生活の改善を目指す取り組み)に力を入れており、現地で栽培されたコーヒーや紅茶などを販売している。東北でも震災直後から避難所への物資支援を行つてゐた。また、2012年3月までは在宅被災者支援として地域交流センター「おしゃり」の設置、現在は北上町十三浜の生業復興支



震災後は一部の自治会員しか集まってないイベントを、震災前のように全員でイベントを企画したいという住民の方。

こどもたちの声

相川地区のこどもたちから皆で一緒に遊びたいという声や、家族で何かしたいという声が聞かれました。そんなこどもたちの声を一部を紹介します。

「こお、おに」

したへい!!

(小学生女の子)

みんなで

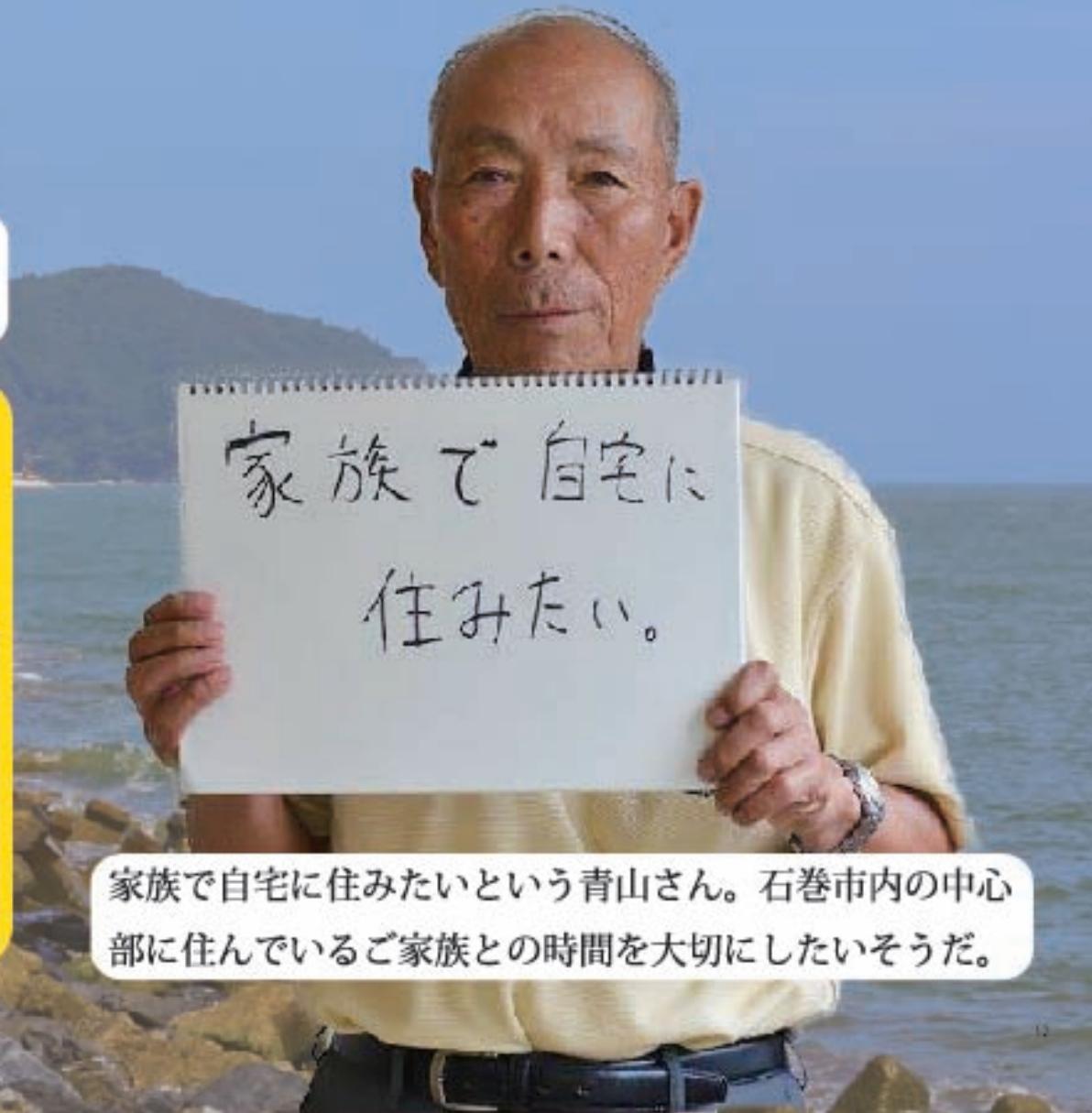
家を建てたい

(小学生女の子)

「結束」の重要性を伝えたい

みんなでもう1度やってみたい事は何ですか？

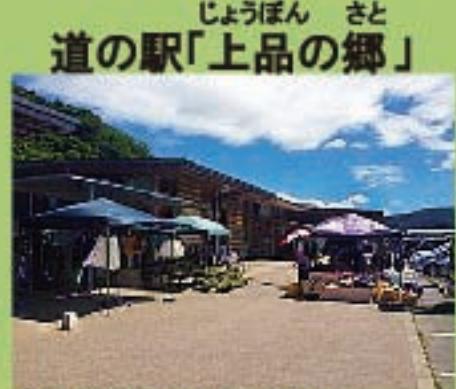
今回の取材地である相川地区やにっこりサンパークの住民の方に、「みんなでもう1度やってみたい事は何ですか？」というフリップアンケートを行いました。被災地の方々がどんな思いを寄せているか紹介します。



家族で自宅に住みたいという青山さん。石巻市内の中心部に住んでいるご家族との時間を大切にしたいそうだ。

石巻どんぐりハウス 周辺マップ

45



道の駅「上品の郷」

64

レストラン
10:00 ~ 20:00

温泉施設
9:00 ~ 21:00

石巻の名産はもちろん
バイキングや温泉など
上品の郷ならではの施設がある
TEL(0225)62-3670

4
十

北上川

担当：三谷

東京からの行き方

東北新幹線または高速バスで仙台駅
仙台駅からレンタカーで1時間30分

にっこりサンパーク



テニスコート野球場などの
運動場が借りられる！
青いアーチの看板が目印

398



住所 石巻市北上町十三浜崎山 41-1



福島

14

15

結心では皆様からのご感想を募集中！

ご意見ご感想がありましたら、下記のアドレスまでお送り下さい！

E-mail:yulkko.311@gmail.com

発行日

2014年10月30日

発行責任者

花塚優人

編集責任者

増澤水緒

発行所

東海大学チャレンジセンター

3.11生活復興支援プロジェクト

問い合わせ先

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目4-1-1

TEL

0463-50-2472

HP

<http://deka.challe.u-toukai.ac.jp/3.11lcp/>

あげるひと、もらうひと

伊藤：パソコン

杉江：職員室

吉原：掃除物、人と話すこと



編集

増澤：「元々タガがありません。」

山崎：階段の下り

山口：新聞配達の音。

城森：孤独



表紙

川根：無茶ぶり。



復興の足跡

花澤：徹夜の作業
中に突然流れるホ
ラーのCM。



現状紹介

熊谷：マスコミ

金子：人込み

須藤：放題飲料



どんぐりハウス

周辺マップ

三谷：チョコレート



編集後記

あなたの苦手なものは何ですか？

interview

中村：(その1) ここで下手
にボケて滑ってア水面晒し
ちゃうこと。

安久：ホコリ

藤崎：人が多い所。

菊池：電車の乗り換え

二見：犬が怖い！！

土谷：サメ（夢によく出てくる）